

令和3年度 河川水質調査結果

1 生活環境項目

調査項目	A			B			C			D			E			F			G	H
	水素イオン濃度 (pH)			溶存酸素量 (DO)			生物化学的酸素要求量 (BOD)			浮遊物質 (SS)			大腸菌群数			全亜鉛			ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)
基準	6.5以上8.5以下			7.5以上			2以下			25以下			1000MPN/100mL以下			0.03mg/L以下			0.02mg/L以下	0.05mg/L以下
測定回数	4回			4回			4回			4回			4回			4回			1回	1回
	最小値	最大値	平均	最小値	最大値	平均	最小値	最大値	平均	最小値	最大値	平均	最小値	最大値	平均	最小値	最大値	平均	—	—
1 勝尾寺川	8	8.1	8.1	8.8	14	11	<0.5	1.3	0.7	1	2	2	490	24000	7200	<0.001	0.002	0.001	0.00007	<0.0006
2 箕川	7.7	9.3	8.4	9.6	14	12	0.7	1	0.9	<1	1	1	330	24000	8900	0.002	0.006	0.003	<0.00006	0.0007
3 鍋田川	8.8	9.6	9.1	12	17	15	0.9	1.2	1.1	<1	2	2	230	24000	7400	0.001	0.006	0.003	<0.00006	0.0012
4 オヶ原川	9	9.8	9.5	12	17	14	0.8	1.8	1.3	<1	3	2	330	24000	8200	<0.001	0.004	0.003	0.00007	0.0016
5 千里川	8.8	9.3	9	10	17	13	0.6	1.3	1	<1	4	2	1300	7900	3500	0.001	0.005	0.003	<0.00006	0.0027
6 箕面川	8.3	9.2	8.8	8.8	17	12	0.5	1.1	0.8	<1	2	2	33	35000	9400	<0.001	0.002	0.002	<0.00006	0.0014
7 余野川(上流)	8.2	9.2	8.5	8.2	12	9.6	<0.5	0.9	0.6	2	250	65	70	7900	2700	<0.001	0.027	0.008	<0.00006	<0.0006
8 余野川(下流)	8.2	8.6	8.4	8.1	12	9.6	<0.5	0.9	0.7	1	17	6	110	3500	1600	<0.001	0.005	0.002	<0.00006	<0.0006
9 川合裏川	8.1	8.3	8.2	8.6	12	10	0.6	0.9	0.8	<1	2	2	130	24000	7100	<0.001	0.003	0.002	<0.00006	0.0006

- ・水素イオン濃度について、全体的にアルカリ性であるが、鍋田川、オヶ原川、千里川、箕面川では、藻類由来の現象(炭酸同化作用)が原因のひとつと推測される。
- ・浮遊物質の余野川上流における調査結果が突出して高い値となっているのは、2月調査において、河川工事の影響とみられる濁り(SS:250mg/L)が発生したことに起因する。

- 健康項目(人の健康の保護に関する環境基準 28項目)について調査した結果、すべて基準値内でした。(年1回)
健康項目のうち、農薬類起因の健康項目(3項目)及び要監視項目及び特殊項目(12項目)についても、すべて基準値内でした。
- 特殊項目(一律排水基準に基づく 9項目)について調査した結果、すべて基準値内でした。(年1回)
- 要監視項目(人の健康の保護に関する環境基準に関連する項目で、直ちに環境基準とせず知見の集積に努める 19項目)について調査した結果すべて基準値内でした。(年1回)
この調査は、勝尾寺川、箕川、千里川、箕面川、余野川(下流)で実施しました。
- 底質調査(28項目)を余野川(下流)と川合裏川で実施しました。過去の平均値並の値であったことで底質に性状の悪化や汚染の進行はなかったと推測されます。

6 ダイオキシン類の調査結果

区分	水質調査		底質調査
環境基準	1pg-TEQ/L		150pg-TEQ/L
調査場所	8月	2月	8月
1 勝尾寺川	0.082	0.07	0.46
2 箕川	0.11	0.069	0.42
3 千里川	0.16	0.065	0.43
4 箕面川	0.073	0.07	0.41
5 余野川(下流)	0.084	0.26	0.3

- ・ダイオキシン類については、すべて基準を十分に下回っていました。